

タウントーク

あなたの街で

市長と語るう



上田文雄札幌市長（左）と司会の鈴木一平さん

第1回 西区

上田市長の就任から3カ月、いよいよ公約の目玉「市民との直接対話」の場となる「タウントーク」が始まりました。第1回の舞台は、西区の生涯学習総合センター「ちえりあ」。9月6日の開催内容をダイジェストでお届けします。

**市民も市長も期待いっぱい
はじめてのタウントーク**

さまざまな市政の課題をテーマに、市民と市長が直接意見を交換する「タウントーク」。

初開催となるこの日は、西区民を中心に約三百人が会場を訪れました。ステージには、地域の子供たちによる「未来」をモチーフとした絵が飾られ、会場の雰囲気柔らかく演出します。

司会を務めるのは、西区のコミュニティFM「三角山放送局」のパーソナリティーでもある歌手の鈴木一平さんです。まずは前段として、市長と鈴木さんの対談からスタート。鈴木さんがこの取り組みへの意気込みを尋ねると、市長は前を見据えて、「私

が市政運営で最も重視しているのが、皆さんの意見を反映させるということ。こうした意見交換の場はその窓口の一つと考えて

います」と会場を埋める市民に熱っぽく語り掛けます。

**元気な札幌の実現に向けて
議論を積み重ねていきたい**

「共に考え、共に悩み、共に行動する」を信条に、市政への参加を幅広く呼び掛ける上田市長。そうした市政運営の指針となるのが、七月に発表した「さつぽろ元気ビジョン」です。

この指針のキーワードは「元気」。「活力あふれる街を実現していくために、市長として皆さんと一緒に考えていきたい課題は？」という鈴木さんの質問に、市長はすぐに歯切れ良く答えます。「まずは財政問題。市債残高が二兆円を超えるなど、市の財政状況はかつてないほど厳しさを増しています。そうした情報を十分に伝えた上で、限られたお金をより合理的に、公平に使っていくための議論を積み重ねていきたい」。

こうした市長の熱意に込めるかのように、この日までにアンケートなどを通じて百八十三件もの意見や質問が寄せられました。二人のテンポの



良い会話で、会場の期待感も一層と高まる中、いよいよ参加者との意見交換が始まります。

